



令和7年度 小出中学校 グランドデザイン

魚沼市の教育

《子育ての方向》

「自ら考え、自ら学ぶ

創造力にあふれた人間性豊かでたくましい子ども」

《重点事項》

- NRT標準学力検査で前年度よりオーバーアチーバーの割合を高くし、アンダーアチーバーの割合を低くする。
- 文科省調査報告で不登校発生率を国・県平均以下にする。
- WEBQU調査で、インクルージブライン内の児童生徒の割合を1学期より高くする。

教育目標 豊かな心をもちたくましく生きる生徒

重点目標

- 主体的に学び、自分の考えを進んで表現する生徒を育成する
- 思いやりと感謝の気持ちを表し、より良い集団を築くことができる生徒を育成する
- 心身の健康を自己管理でき、より良い成長を目指す生徒を育成する

「学ぶ・かかわる・やり遂げる」生徒の育成

＜生徒の実態＞

- 知 ○素直で、与えられた課題に真面目に取り組む。
△宿題には取り組むが、自分で決めた学習を学年の目標時間に届くほど取り組む生徒は少ない。
- 徳 ○明るく、元気な生徒が多く、各種行事に熱心に取り組む。
△互いの意見を伝え合い、より良い集団を築こうとする意識を高めることを課題としている。
- 体 ○普段から積極的に体を動かす生徒が多い。
△適切なメディア利用ができず、生活リズムが乱れがちな生徒がいる。

学ぶ小出中：自ら課題を設定し、解決する力を育てます

— 自らの考えを表現する場の設定 —

☆目指す成果

- 「授業が分かる」という生徒85%以上
- 「授業で自分の考えを表現した」という生徒75%以上
- 1日1時間は家庭学習を行う生徒70%以上

☆具体的な取組

- 「学習5原則」について根気強く指導していきます。
- 思考力・表現力を育成するために、主体的で対話的な学び合いの授業を展開します。
- 「こいでらいふ」を活用し、自律に向けた指導を行い、生徒自身の振り返り（分析）を通して自己の学習方法を考え、実践できるための支援を行います。
- ICTの研修を通して、ICTを生徒が活用して学び合い、表現する授業を実践します。
- 全教職員による各種テストの活用及び結果分析を行い、生徒の実態に合った授業改善につなげます。

かかわる小出中：思いやりの心をもち行動できる力を育てます

— 道徳科の時間を要とした道徳教育の推進 —

☆目指す成果

- 挨拶を自ら行ったという生徒80%以上
- 思いやりや感謝の気持ちを表現した生徒80%以上
- 目標達成のために他者と協力した生徒80%以上

☆具体的な取組

- 自己の生活に生かす道徳的実践力を育成するために、全校体制で「自分の考えをもち、話し合い活動で深める授業（考え、議論する道徳）」の充実を図ります。
- 「道徳ノート」を活用し、道徳的価値に対する自分の考えや思いを蓄積させ、道徳性に係る成長を実感させます。
- 体験活動やボランティア活動等の各種教育を通し、様々な考え方に触れ、自己の生活や生き方を振り返り、より良い生き方について考える活動を行います。
- 道徳教育や人権教育、同和教育に係る研修を年2回以上実施します。

やり遂げる小出中：健康な心と体を育てます

— 個に応じた生活リズムづくりへの継続的支援 —

☆目指す成果

- 体力テストで8種目中6種目が全国平均を上回る
- メディア利用を適切に行い、自ら進んで生活リズムを整え、実践できる生徒70%以上

☆具体的な取組

- バランスのとれた体力の向上を目指して、体育の授業や部活動で補強トレーニングを行います。
- 基本的な生活習慣を育てるために、食事や生活に関する学習を計画的に行います。
- 元気アップ週間では、前後の指導を充実させ、生徒が主体的に取り組めるよう指導します。
- 中学校区3校の連携や「地域学校協働本部事業」、「学校保健委員会」の充実を図り、学校、家庭、地域、医療機関が一体となり取組を推進します。

- 双方向の情報連携
- PTA活動による教育活動支援
- オープンスクール、たより、HPによる情報提供と学校評価

元気アップ週間

家庭学習強調週間

学習規律育成

- 共通取組事項のデータの共有化
- 「学び方ガイド」の作成・活用（9年間）
- 特別支援教育・人権教育、同和教育研修の共同実施
- 実践発表会、授業公開等による交流研修の実施
- 生徒の自己有用感を高める活動（小学生への支援等）

地域学校
協働本部事業

- ・学習支援
- ・環境整備

- 職場体験学習、地域探訪学習等への支援
- 人権意識啓発あいさつ運動の実施
- 継続的なボランティア活動の実施
- ・ふれあい配食クラブ
- ・ボランティアスクール

学校運営協議会